

# ひるさがりの朗読会

## PART3

講座 朗読を学ぼう

6月16日(木)

八女市立図書館 2F 研修室



おととしの第1回、昨年の第2回と大好評だった『ひるさがりの朗読会』。6月16日(木曜日)あいにくの雨の中、今回PART3として講座を行いました。当日は、24名の参加があり相変わらずの大盛況となりました。

講師は、1回目、2回目にひきつづき、長崎県ご出身のフリーアナウンサー高月晶子さん。

まず、宮沢賢治の詩『永訣の朝』を朗読されました。宮沢賢治が最愛の妹を亡くし、その別れの心情を綴ったこの詩を感情深く読んでいただきました。室内が情緒いっぱいの雰囲気につつまれ講座がスタートしました。



朗読はただ声を出すだけでなく、声を出しやすくするための準備も大切とのことで、受講者全員で腕をまわす体操をしたり、呼吸法の練習をしたりしました。普段はできないくらい大きく口をあけて母音を発声することも基本練習のひとつ。人には見せられないような大きな口をあけて発声練習もしました。

いよいよ、実際に文章を読んでみようということでウォーミングアップとして早口ことばをゆっくり読んでみたり、早く読んでみたり。

・お綾<sup>あや</sup>や親<sup>おや</sup>にお謝<sup>あやま</sup>り

お綾<sup>あや</sup>や八百屋<sup>やおや</sup>にお謝<sup>あやま</sup>りとお言<sup>い</sup>い

う～ん。むずかしい～。ゆっくりと早くを合わせて練習することで、朗読の上達につながるそうです。



先生もこんな表情 (^O^)

さて、いよいよ後半。「祝婚歌 吉野弘/著」を朗読します。個人で読む練習をして発表をしていただきました。結婚のお祝いの歌ということで、それぞれの結婚生活の情景を思い描きながら？！3人の方に発表していただきました。それぞれご自分の声質にあわせて、発声を気かけながら読んでありました。みなさんとってもすてきな声で、ひとりひとりに違った詩の情景が広がるようでした。



最後は、先生に朗読をしていただきました。

「原子雲の下に生きて 永井隆/著」

先生のご出身でもある長崎。この本は戦争で生き残った小学生の体験を手記にまとめたもので、悲惨な戦争を二度とくりかえして欲しくないという思いから永井隆さんが編集をされています。

ひるさがりのひとときに、高月先生のやさしい声で、作者の思いを込めた朗読が最後の講座の時間の中で響きました。

あっという間の90分間。今回は、実際の朗読もしてほしいという前回の参加者の希望も取り入れた形での講座でした。高月先生にはお忙しい中、快く講師を引き受けていただきました。

誰かの声でかたまりを聴くことは、いくつ歳を重ねても心地よいものだと感じた講座でした。

たくさんのご参加、ありがとうございました。

